

氏名	千葉 真希子	部署	看護学科	職名	助教
研究分野	母性看護学、助産学、国際協力				
学位	修士（国際医療協力）				
学歴	2002年茨城県立大学保健医療学部看護学科卒業、2006年千葉県医療技術大学校助産学科卒業、2016年杏林大学大学院国際協力研究科国際医療協力専攻博士前期課程修了				
経歴	2018年埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科助教				
所属学会（役職）	日本看護科学学会、日本助産学会、日本母性衛生学会、日本母性看護学会、日本国際保健医療学会、日本看護シミュレーションラーニング学会、埼玉県立大学保健医療福祉科学学会				

【2023年度実績】

1. 研究業績						
(1) 著作						
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	該当なし					
(2) 論文						
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌 雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ	著者、編者名	発表等年月
1	該当なし					
(3) 学会発表						
	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市	発表者（発表者は○印）	発表等年月	
1	多文化共生社会の推進を目指した周産期看護職対象のプログラム「やさしい日本語」試行研修会の実践報告	共同	第43回 日本看護科学学会 学術集会、下関市	○浅井宏美、齋藤恵子、千葉真希子、森美紀、山口乃生子	2023.12	
2	分娩介助実習直前の助産学生における模擬産婦シミュレーション演習前後の実習意欲の変化	共同	第5回 日本看護シミュレーションラーニング学会 学術集会	○東原 亜希子、柴田 由里子、山本 英子、森 美紀、兼宗 美幸、齋藤 恵子、浅井 宏美、千葉 真希子、齋藤 未希、堀口 香織、鈴木 幸子	2024.2	
(4) その他						
	名称	単・共	発表場所等	発表者（発表者は○印）	発表等年月	
1	該当なし					
2. 競争的資金等の研究						
	競争的資金等の名称		研究名	研究代表者・研究分担者の別	研究期間	
1	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究C）		「気がかりな」外国人妊産婦の心理社会的ハイリスクスクリーニング指標の開発	研究代表者	2023.4～2027.3	
3. 教育業績						
(1) 講義						
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）		
1	助産業務管理		2	助産系4年次生22名に、国家試験対策として、特に業務管理の出題基準に関連した内容や学習方法について講義した。また、妊産婦等要支援者の災害時支援について、机上災害シミュレーションである避難所運営ゲーム（HUG）を実施し、臨場感を持ちながら学習効果を高められるよう工夫した。		
2	グローバルヘルスと看護		2	看護学科4年次生145名に、自身の海外での母子保健活動等の体験をもとに、看護・助産実践のみならず、多文化共生の視点での活動報告についての講義を行った。また事例検討のグループディスカッション・講義補佐等を行った。		
3	周産期のケア		0.5	助産系4年次生22名に、既習の知識を確認しながら臨床で見逃しやすい退行性変化の兆候などについて、臨床架空事例を活用し、アセスメントの視点を学生と検討しながら進める講義を行った。		

(2) 演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	分娩期のケア		20	助産系4年次生22名に、学生が各演習の目標達成や臨地実習等の実践をイメージしながら助産技術に関連した演習等ができるよう、産痛緩和（体位）演習、分娩介助演習の担当を行った。
2	母性看護学Ⅱ		3	看護学科2年次生130名の科目責任者の補佐業務および、新生児の演習（抱き方・おむつ等の交換/全身観察）、家族計画演習補佐の担当および補佐を行った。ポイントをつかみながら3年前期の実習に向けたイメージづくりができるような工夫しながら演習を行った。
3	周産期のケア		10	助産系4年次生22名に、助産師外来演習Ⅰ（妊婦健診）、集団指導のグループワーク等を行った。学生が対象者の特性を捉えた指導案作成や集団指導の実践のイメージができるよう演習を進めた。
(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	母性看護学実習		2023.5.～6. （うち7週間）	看護学科3年次生135名の母性実習1（産科病棟実習）・実習2（性と生殖におけるヘルスプロモーションの実習）において、学生が安全に実習し、目標到達ができるよう臨地実習および見学実習、カンファレンス等を行った。
2	総合実習（母性看護学領域）		2023.7. （うち3週間）	助産系学生2名、1施設を担当し、産科病棟および産科外来の実習を行った。実習経験が少ない学生が段階的に学習効果を高められ、安全に実習できるように支援した。
3	助産学実習Ⅱ		2023.8～9. （うち6週間） 2023.11（NICU1日）	・助産系学生2名を担当し、産科病棟1施設を担当した。学生の習熟段階に合わせてながら、これまでの知識が実践に繋がるように学習の整理をしながら思考に結び付くよう支援を行った。 ・NICU実習1施設1日間を担当し、NICUにおける看護や周産期医療体制等の理解が深まるように見学実習およびカンファレンスの調整を行った。
(4) 論文指導				
	対象	期間	主旨導・副指導の別及び指導人数	
1	卒業論文	2023.3-2023.12	主旨導	2名 副指導 名
(5) その他				
	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	該当なし			
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師				
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年
1	埼玉県立大学高校出張講座	埼玉県立鴻巣高校	性教育講演「一緒に考えよう わたしたちの性」	2023.12
2	埼玉県立大学高校出張講座	埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園	性教育講演「一緒に考えよう 性感染症・わたしたちの性」	2024.1
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等				
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称		任期
1	一般社団法人 日本国際看護学会 第7回学術集会	企画・準備委員会 運営委員		2022.9～2024.3
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称	内容		年月
1	該当なし			
(4) その他				
	項目	相手方等	内容	期間
1	地域貢献活動	卒業生・看護職	産科スタッフのための「やさしい日本語」研修会 運営。	2023.12 2024.2

1	地域貢献活動	国内外の地域住民など	インターナショナルひな祭り 世界の遊びとひな祭り等の体験などの運営(りそなYOUTH BATH)。	2023.12 2024.2
5. 学内運営				
	項目	内容		期間
1	全学的委員会及びセンター業務等	IPW科目責任者会の教員・施設担当として、説明会および関連アンケートの取りまとめを担当。実習中は地域FTとして4施設担当として教員FTや責任者間の調整および学生の報告会などを行った。		2023.4~2024.3
2	学科等における委員会等	SPU学会の一員として、学術集会開催、運営運営補佐等を行った。		2023.4~2024.3
3	学生支援	学部生、編入生3、4年生から、国際協力を目指す学生や、実習を経験していないことで就職先に不安がある学生からの進路等の相談を受けた。		2023.4~2024.3
4	学長指定プロジェクトへの関与	健やかな妊娠・出産・子育て期を目指した文化に配慮した「やさしい日本語」研修プログラム開発（研究開発センタープロジェクト）		2023.4~2024.3
5	大学広報活動	オープンキャンパス担当としての領域内企画、学内実習室等を中心に参加者を案内する実習室担当を行った。		2023.6-8.
6	国際交流活動	学園祭（清透祭）において、「SPU TABUNKA MANABI Cafe」の開催における企画・運営補助等を行った。		2023.10.
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）				
	受賞名	主催		受賞年月
1	該当なし			
7. 特許の取得				
	特許名	特許番号		登録年月
1	該当なし			
8. 特記事項				
1	該当なし			